

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790700090		
法人名	特定非営利活動法人 豊心会		
事業所名	グループホーム すずらんあかり あかり I		
所在地	福島県須賀川市森宿字横見根66-7		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	令和5年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にあるようと年度目標を軸に、今までの暮らしを大切にしながら、ご本人の力が発揮できるように、自発的な行動や意欲向上のきっかけを作りながら、1人1人入居者さんが、生き活きと暮らしをできるように繋がりを大切にしております。入居者さん同士の繋がり、入居者さんと職員の繋がりが、「こだわり」「一緒に楽しむ」ことを大切にしながら、その人らしい生活を送れるよう考え続けることを大切にしております。また、ご家族との関係性がとぎれないように、創意工夫することを意識しています。職員に関しても、年齢も様々な事を強みとし個性や得意なことを大切にしながら、「入居者にとって」を主語に、より良い支援につながる事や、職員自身も役割を持ち、楽しみ、やりがいを持って働ける事業所を目指しています。これからはグループホームすずらんあかりが地域の社会資源となるよう、地域の方との交流を増やしつつ、職員の質の向上にむけ、内部研修の構築や情報共有、外部研修への参加に力を入れ、地域にも頼られる場所として、事業計画をしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 居室や来訪者数によっては陰圧室を用いての面会を実施し、家族や親しい人、数十年ぶりの再会を遂げた友人・親族など、大切な関係が途切れない支援をしている。家族の協力も頂き、自宅への外出や告別式への列席、馴染みの場所(岩瀬牧場・釈迦堂川など)へのドライブなども実施している。近所の店からテイクアウトし、昔からの味を楽しむ機会も大切にしている。
 2. 利用者はできる範囲で米研ぎや野菜の下処理、味付け、盛り付けなどに参加している。献立は職員がつくが、利用者の希望で鰹の解体ショーの開催や自ら料理の一品を調理する機会を設けるなど、利用者が楽しめる食事環境を提供している。また、できる限り長く口から食べて頂くために、毎月の歯科医往診による口腔内チェックや口腔ケア、毎日の嚥下体操などの健康管理にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人との出会いを大切にするという理念を朝のミーティングや会議の時に共有する機会を設けています。シニア雇用の方などは、話す機会多く持つようにしています。ただ、新型コロナの影響もあり、出会いの数が少なくなってしまう、職員と一緒に模索しています	事業所が地域の一員であることを踏まえて、今年度職員会議で新たな理念を作成している。理念は事務所内に掲示し、具体的な実践につなげていくための年度目標を策定のうえ、毎朝のミーティングで確認・共有している。会議でも運営理念を拠り所としてよりよいケアを模索している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響もあり地域との交流は少なくなっていますが、町内会長さんがペットボトルのキャップをどのように活用するかとい相談を頂き、近くの小学校へ利用者の方と届けに行き関係性を作る取り組みをしています	近隣の方々や挨拶を交わし、コンビニへの買い物、野菜等の差し入れを頂くなど、地域と密着した生活を送っている。近所の方が介護相談に訪れることも度々あり、その都度丁寧な説明を行い、他機関を紹介するなど、事業所が地域の一資源として機能している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ前は、地域の方のウルトラ体操を行う場所の提供に協力していたり、利用者の方も一緒に参加したりと交流をしていました。コロナ禍の中、地域交流への貢献に関しては課題があります		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	資料配布が多くな顔を合わせて開催することが少なくなり意見の集約までは出来ていません。その中でもNO2に記入したように、ペットボトルのキャップの寄付などして頂き、地域での役割、事業所の取り組みにつなげています	書面開催・対面開催ともに3回ずつ実施し、書面開催では管理者が資料を委員に届け、その場で要望等を伺っている。職員からの意見を集約し、会議で協議することもある。委員からの提案でAED研修会を地域との共同により開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症相談窓口つむぎの広場を開設し、市、包括支援センターと連携を図りながら在宅で暮らす認知症の方の支援を行っています。また、法人で取り組んでいる認知症カフェの開催の中心となっており、連携を図りながら開催をしています	管理者はメールや電話のほか、認定申請等で担当課に定期的に出向している。また市主催の高齢者虐待ワーキングチーム(年5回)や認知症カフェ打合せ(年2回)にも出席し、互いに情報交換をしながら連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の倫理委員会から、課題を提示されそれに基づき朝のミーティングで話し合う機会を設けています。不適切なケアの振り返り、自分のケアの振り返りをその都度話すようしています。無意識に拘束に繋がる不適切なケアがないか、日常的に話題にするようにしています	身体拘束廃止に関する指針を策定し、研修会(年2回)と2ヶ月ごとの委員会のほか、ユニット会議でも不適切ケアをテーマに学びを深めている。動画研修会後にはアンケートを実施し、感想とともに業務の振り返りを行い、拘束を要することのないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	採用時研修には、職業倫理等について話、その後事業所で管理者より不適切なケアについて学ぶ機会を設けています。高齢者虐待など身近で起きてくるニュースを話題にし、朝のミーティングで話すようにしています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が社会福祉士の受験し、職員へ自立支援の取り組みや意思決定支援について伝える努力をしています。その中で、認知症における意思決定支援の難しさをミーティングで職員と話す機会を設けています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学などが、新型コロナの影響により十分に出来ていない部分もあり、口頭だけの説明になってしまいます。その中で、契約時は出来るだけ丁寧に説明してはいますが、その場面だけで十分でない時もあると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	12月に家族交流会～あかり写真展～を開催し3年ぶりに家族を事業所にお呼びして開催しました。生活の様子などスライドショーで見て頂き、情報の共有を行いました。しかし、面会の制限などあり、十分に伝える事は出来ていません	管理者は電話や面会をとおして随時家族から意見を伺っている。家族交流会も開催し、寄せられた多くの意見は職員間で共有し、業務改善に反映させている。あわせて「家族アンケート満足度調査」(年1回)も行い、事業運営に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が交代となり、職員との関係性がまだ出来ていない為面談の機会を設けながら職員の意見を聞くようにしています。新しいサービスへのチャレンジなどしており、職員のサポートなど十分に出来ていない部分が多々あります	管理者はミーティングや会議などで意見を聴き、運営に活かすとともに、職員の出勤・退勤時には一声かけるなどのサポートに努めている。内容によっては法人の管理者会議に挙げて、情報を共有するとともに、業務改善につなげている。今年度は職員アンケートも実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の変更や残業の無いようにする取り組みを行っています。iPadの活用、文書の管理、提出物の簡素化など様々な取り組みをしています。しかし、外部研修の機会なども少なくなり、グループホームの職員のやりがいなど迷う時があります		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けた勉強会などもおこないサポートしています。しかし、事業所内での日々のカンファレンスが不足しており、利用者の対応に追われてしまう事が多くあります		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加する機会が少なくなり外部との交流が少なくなり、ネットワーク構築など少なくなりました。その中でも、東京に管理者が研修へいき外部の管理者と話してくるなど、新しい風を取り込もうと努力しています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			0		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉の本音と建前があるためしっかり表情を見ながら話を聞くようにしています。また、これからの要望や今の不安を個別に時間をとりながら話を聞くようにしています。困った時に話をするのは誰か、どこに聞けばよいかとしっかりと伝えするようにしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、困っている事、不安な事に関し、お聞かせ頂き、入居されてからも、ご様子について連絡させて頂いております。帰りたい気持ちがあり、家族と相談いつでも電話をできるように利用者の方に電話をかけてもらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みをしてからも関係性が築くようにお聞きしたりしている。顔見知りの関係を作る上で、他サービス、共用型デイ、緊急ショートもあることで、少し安心して入居に繋がる工夫を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、挨拶の大切さや、相手を考えて行動することの必要さを学んでいる。全てサポートするのではなく、待つ姿勢を大切に、「すみません」ではなく、「ありがとう」を意識した挨拶を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日の日に面会の機会など作り、面会を継続できるように取り組みはしてきました。しかし、新型コロナウイルスもあり、電話でのやりとりが多くなった中で、ご本人と家族、職員の距離が少し離れたように感じる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの状況もあり、積極的にはあかりからは作れていません。しかし、理念にも掲げている繋がりを大切にして行く為、面会についてもルールを決めて直接会えるように工夫し、数年ぶりに友人、親族に会えた方もいました。	居室等での面会を実施し、家族や親しい人とも関係が途切れないよう支援している。家族の協力も頂き、自宅への外出や告別式への列席、馴染みの場所へのドライブなども実施している。近所の店からテイクアウトし、昔からの味を楽しむ機会も大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人の時間も大切にしつつ、リビングでは「一緒に」トランプをやったり、ご飯作りを行っています。入居さんが他の入居さんの部屋にいき、お茶を飲む機会を増やしていきたいと思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった方に対して、環境が変化しても本人の暮らしが継続していけるよう、本人の状況、習慣、好み、ケアで工夫していた点などの家族や関係機関に情報を詳しく伝えることに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人への相談を行い、その時の思い、言葉を大切にしています。その言葉、思いを記録に残し、朝のミーティングや職員会議等で話し合い、ご家族に相談意見を頂いて希望や意向を大切にしています。	日々の関わりの中で、希望や思いの把握に努めている。入浴ケアでは、生活歴や思い出話を傾聴し、職員間で情報を共有し個別理解を深めている。帰宅願望がみられるときも思いを尊重して抑止などせずに利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これからの暮らしを支えていく為に、入居の際に「その人を知る生活史」を記入して頂いています。また、入居までに、自宅を訪問したり、以前に利用していたサービスの担当者にこれまでの様子を伺っています。入居後もご家族に聞きながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族や以前のサービスの担当者などに伺いながら、ご本人に伺い、ペースに合わせながら行っていたり、できないところは支援しています。24時間シートの作成し活用しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やご本人から楽しみや不安などを伺い、朝のミーティングや職員会議で話し合い作成しています。不安な事ばかりでなく、あかりでは役割を意識し、意欲をもって生活できることを大切に作成しています。自発的な行動に繋がるよう努めております。	センター方式の各シート並びに入居時家族に書いてもらった「生活史その人を知るシート」でアセスメントを深め、ユニット会議にて皆で意見を出し合い、介護計画を策定している。ケア提供内容を「24時間サービス一覧」にまとめ、ミーティングや申し送りの中で随時、支援内容を見直し、現状に即した介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	マイナスな面だけではなく、プラス面も共有し、入居者の力を活かすため、24時間の生活の中に取り入れてる。行動だけではなく本人の言葉、表情についても記録に残し役割、自信、意欲に繋がる関わりをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅への外出、告別式への参加などその人が暮らし続けてきた生活を継続できるようにしています。また、共用型デイサービス、短期入所受け入れなど新たな多機能化を目指して、市と連携を図りながら行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の家族がおこなうお店からテイクアウトしてお昼を食べたり、馴染みの美容師さんに来ていただき髪を切ってもらったりしています。しかし、季節の行事などは感染を気にして消極的になってしまい外出する機会は少なくなっています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの先生と連携を図りながら、本人の支援をしています。また、体調が悪い時などは、先生から事業所へ電話を頂き、常に気にして頂ける関係を築くことが出来ている思います。その中で、体調の変化など丁寧に相談しながら行うことができています	入居前のかかりつけ医を家族の協力を得て継続受診している。バイタル一覧票と本人の様子を書面にし家族から伝えてもらっている。職員が同席して受診する場合もある。重度化し受診が困難になった段階で往診医(協力医)に変更している。皮膚科などの専門医は以前の受診先で見てもらっている。受診の結果は電話で家族に伝え共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出勤時に、利用者の状態を相談しながら対応しています。また、休みの日や看取り期が近い時には、電話で相談したり、勤務を変更して出勤したりと利用者の変化に応じて対応しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の入院は適切な情報を提供できるように、iPadの情報など準備して情報を提供するようにしています。また、入院中は家族と相談し病棟に連絡をし、状況の説明を受けたり、退院時のカンファに参加できるようにお願いしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食形態の変化するときには、家族へ連絡しながら状況を確認しながら支援にあたっています。また、終末期には主治医の先生から話を頂き、今後の支援を皆さんで共有するようにしています。出来るだけ面会の環境も整え、本人の大切な人と会う時間を作っています	入居時に重度化・看取り指針で事業所として出来ることを説明し同意を得ている。重度化した場合は主治医から説明があり、終末期の支援について家族と話し合い終末期の覚書を取り交わし、看取りに取り組んでいる。主治医・職員・嘱託看護師と役割を話し合い、家族との面会についても大切な時間として環境を整え関係者でチームを組み、看取りに取り組んでいる。職員に対し看取り研修も行い、終末期の対応や状態を見る視点を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや事故の対応方法など表示や保管はしています。しかし、実際の場面になると慌ててしまい、マニュアル通りに動けない事が多々あります。記録なども不十分なので共有できていない事があります		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会の周知などもあり、季節ごとに避難訓練なども行っています。他事業者が水害に合い避難を受け入れる訓練なども行っています。また、事業所内での避難訓練は、夜間想定など全職員までは体験していないので、体験できるように計画をしていきたいと思っております	法人の災害対策委員会で方針を示し、火災や地震を想定した避難訓練や通報訓練を季節ごと実施している。消防署立ち会い訓練では直接居室の掃き出し窓からの避難も考えるようアドバイスがあった。食料品・防災グッズが備えられ、事業所のBCP計画も策定されている。今後は、管理会社の防災機器点検時に機器の扱いや誤作動時のスプリングクラーの止め方などを学ぶ予定になっている。	夜間想定避難訓練は夜勤職員全員が経験を積めるよう回数を重ね訓練することが望まれる。また、運営推進会議開催時に避難訓練を見てもらうなど災害時地域住民の協力が得られる関係づくりも望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際にノックをしたり、排泄時に介助が必要な利用者にはひざ掛けをかけています。排泄の声かけをする際も、他の利用者には気付かれないよう、耳元でおこなうなど配慮しています。またご本人の羞恥心、プライドへも配慮することを話す時は、話す場所を考えた上で職員間で話し合っております。	入職時に尊厳やプライバシーを学ぶ他、管理者がOJTで入室時のノックや声掛け、排泄時の声掛けやひざ掛けの利用などケアの統一に努めている。ストマ交換時の利用者への対応をグレーなケアと取り上げ、対応を話し合うなど常に利用者への尊厳やプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あかりでの役割をご本人と一緒に決め、役割が強制にならぬよう、毎日ご本人に確認しながら行なっています。自然と行えるようになることを目標に、ご本人の意思を尊重、自己決定することを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を大切にしていける為、目覚めた時間、寝た時間を申し送りし、会話の中で、「今日は何して過ごしますかね〜？」と相談する機会を作ります。また、入浴の時間をご本人と相談したり、就寝時間も日に眠気の様子を観ながら促しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝る前にパジャマに着替えし、その日の衣類は洗濯し片付けるようにしています。衣類は一緒に選ぶようにしています。また皆さん鏡を見て、髪の毛を整えられております。台所仕事するときはエプロン等も身に付け行えるよう準備しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事に直接関わることその他にまつわる支援を行っております。食べるだけでなく、一緒に作る事から大切にしています。味つけや味見、彩り、メニュー表に関して、入居者さんにお聞きし、一緒に立てる日も増えてきております。	利用者はできる範囲で米研ぎや野菜の下処理、味付け、盛り付けに参加している。メニューは職員が作るが、利用者の希望で目の前での鰹の解体ショーや利用者が一緒に考え自ら料理の一品を作り上げる機会を設けるなど、利用者自身が楽しく参加できるよう支援している。野菜の差し入れや畑で採れた野菜を食材にするなど旬を楽しむ食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の盛り付けの量や形態に合わせて提供しています。食器の大きさや使いやすさ、座る姿勢なども意識し観察しています。誤嚥性肺炎のおこりやすい方に医師とご家族と相談し食事の内容や形態も工夫しながらソフト食やミキサー食にとろみをつけ食べて頂いています。食が進まない時はご本人が好むものを準備して食べて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣に合わせ毎食後はできていない方もいますが、声かけをしてできるだけしていただけるように心がけています。自身ではできない方は声かけや介助を行い、清潔の保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を活用し、間隔がいつもよりあいている場合は声かけし案内することもあります。また迷わず自分で行けるよう目印や表札を付けています。立てる方や介助することでトイレに座れる方であれば、トイレでいただくことを大切にしています。リハビリパンツ、パット、布パンツは適切か、便意、尿意についても把握に努めています。	排泄記録は紙の一覧表やタブレットで入力するなど二重に記録し職員が利用者の尿意や便意を把握できるようにしている。適時にトイレに誘導し自立排泄に努めている。また、利用者が迷わないようトイレを見やすく表示し、自力排泄を継続できるよう工夫している。布パンツ・リハビリパンツ・紙パッドや布パッドを利用者に合わせて使い分け、快適性や経済性にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や調整、毎日ヨーグルトを食べることや、ヤクルトを飲んだり、便秘解消運動や食後に便座に座る習慣など行ったうえで、それでも便秘の場合は医師と連絡し下剤などを調整して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の時間で入浴していただけるよう努めています。また柚子や菖蒲等季節に合った入浴の工夫をしたり、入浴剤を使用したりし、楽しめるようにしています。ご本人のこだわりを大切に、好きな湯温、昔行った温泉などのお話し楽しみながら入浴できるように心がけています	入浴は週2~3回、午前・午後・夕食後20時まで入浴できるようになっており、毎日入る利用者もいる。入浴時間に選択の幅があり、利用者の希望やこれまでの習慣に対応出来ている。ゆず湯・しょうぶ湯・りんご湯があり、好きな入浴剤を選べるとともに、職員とゆっくり話せる楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や湿度などの調整をしています。また照明も一人一人にあった暗さにしています。週に一回はシーツ交換を行い、天気の良い日は布団を干すなどして気持ちよく休んでいたデカるようにしています。特に消灯時間等もなく、眠くない場合はリビングでテレビを見て過ごすなどいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服している説明書のファイルを置き、いつでも確認できるようにしています。また臨時薬や変更があれば申し送りしています。何か気になることがあればご家族相談し、主治医に確認し変更、追加等調整しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方同士で、食事の配膳や片付けを行って下さっております。1人1人の役割になっており、こだわりのぶつかり合いもありますが、お互いが声を掛け合われています。気分転換として、ラジオ体操、近所の散歩、ドライブの他に、季節の風習行事(夏祭り、芋煮会、餅つきなど)を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は積極的に外食、旅行などの計画も行えませんでした。外出に関して、近辺の散歩やドライブに出かけたりと少しずつ行えてきております。ご家族より外出の要望などもお話を頂いております。ご本人とご家族と希望に添って支援できるように相談を重ねていきたいと思っております。	コロナ禍で外出の制限はあるが、近くの神社への初詣や福島空港展望台に出かけ、市内ドライブで昔の風情が残っている警察署など馴染みの建物見学に出かけている。天気が良ければ公園への散歩や近くのパン屋に出かけおやつを購入している。コロナ前のように本人や家族の希望を踏まえ外出機会を増やす検討を始めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を管理されている方もおり、外出時に自由に使ってもらっています。多くはお菓子などが多いです。また管理が難しい方は事務所で預かり、必要時に使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な人に自ら電話をしたり、手紙のやり取りに関して、現在家族様と協力しながら行っております。今後、SNSも活用しながら行って行きたいと考えております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日にちや時間をご自分で確認出来るよう、カレンダーや時計を目線に合わせて置いております。昼食作りでは一緒に準備しながら、季節の食材を使ったメニューを取り入れております。蔭の臺を使った蔭みそを教えてくださいました。	時間や日時を確認できるよう日めくりカレンダーや時計を見やすく掲示する他、季節の花を飾り季節感を感じてもらっている。利用者が書いた職員の似顔絵、猫のイラストなどを掲示しているが、それ以外の掲示物は少なく落ち着いた雰囲気となっている。廊下にはところどころソファがあり、友人との語りや一人の時間を過ごせるようになっている。エアコン・加湿器などで快適な環境を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やテーブルの配置を工夫し、4人で座れるスペース、テレビの前にはソファを置き、一人でくつろいで過ごせるように配置しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居前に、一度見学に来て頂き、居室環境について、今までの暮らしに当たり前にあった馴染みのものを持参されるからでもあります。馴染みの中には、大きなものだけではなく、ご家族写真や入居者、職員写真なども飾っており、今まで馴染みとこれからの馴染みを作っていくよう工夫しております。	ベッド・エアコン・カーテンが備えられ、自宅から衣装ケース・家族写真・テレビ・ゴルフパターセット・ダンベル・小説など馴染みのものを持ちこみ、自宅に近い雰囲気づくりをしている。また、自宅で使っていた布団や茶碗類を持ってきてもらい使用している。職員は、本人のこだわりを知り、これからの馴染みづくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居前に表札をつけ、ご自分の居室まで行き帰り出来るような環境になっております。ご飯茶碗、汁椀、箸、などご自分の器を準備から片付けまで行って下さっております。名前をつけることで、他の入居者さんの準備を自発的に行って下さる方もおります。		